

一般地域住民における歯科医院への定期受診の状況と 要因についての考察

古田美智子, 山下 喜久

Regular dental visit pattern and consideration of its related factors in Japanese community-dwelling people

Michiko Furuta, Yoshihisa Yamashita

九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野

キーワード：歯科医院、定期受診、受診行動

要 旨

歯科医院に定期的に受診することで口腔の健康状態を良好に維持することができる。現状では多くの国民が定期的に歯科医院を受診しておらず、一般地域住民を対象に行われた調査では、定期受診者は35%であった。先行研究の結果を踏まえると、定期受診をしていない者の特徴として、男性、若年者、経済状態が悪い、現在歯数が少ないことが挙げられた。また、症状があっても我慢して歯科医院を受診しない者や口腔の健康に注意を払っていない者、口腔の状態が悪いと感じないため歯科医院に行きにくいと思っている者では定期受診をしていない者が多かった。さらに、歯科衛生士がいない、歯科衛生士専用のユニットがない、歯科保健指導時間が短い歯科医院では、その患者は定期受診していないとの報告があり、受診行動は個人の要因だけではなく歯科医院の要因が関わると考えられる。

緒 言

歯科医院へ定期的に受診することで、う蝕や歯周病の早期発見・早期治療のほかに、プロフェッ

ショナルケアによる歯科疾患の予防につながる。また、定期受診によって、自身の口腔健康状態を継続して把握することができ、口腔の自主的な健康管理や日常的な口腔の健康増進行動の実践も可能となる。定期的な歯科受診によって、歯科疾患のエンドポイントである歯の喪失が抑制されることは報告されている。10年間の縦断調査の結果では、定期受診をしていないと歯の喪失リスクが高く、定期受診をしないことの人口寄与危険割合は18.5%であった¹⁾。これは、歯の喪失の18.5%が定期受診をしていないことで起こっていることが示

【著者連絡先】

〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1
九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野
古田美智子

TEL : 092-642-6353 FAX : 092-642-6354

E-mail : mfuruta@dent.kyushu-u.ac.jp

受付日 : 2021年11月8日 受理日 : 2021年11月29日

唆される。このように、口腔の健康状態を維持するために定期受診は効果が認められるものの、現状では多くの国民が定期的に歯科医院を受診していない。

本稿では、一般地域住民における歯科医院への定期受診の状況と要因を報告し、過去の報告内容を踏まえ、定期受診の要因を考察する。

対象および方法

定期受診の状況と要因を評価するために、以下の一般地域住民を対象とした調査データを用いた。

1) 8020推進財団調査研究事業「一般地域住民を対象とした歯・口腔の健康に関する調査研究」²⁾

8020推進財団が、2014～2019年に「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究事業」を実施し、その一環として実施された調査で、層化2段無作為抽出により全国の市町村から抽出された20～79歳の5,000人に質問紙を配布し、2,465人（有効回収率49.3%）から回答が得られた。質問票で、過去に歯科医院を受診したと回答した者のうち、その受診理由が「定期健診のため」または「治療および定期健診のため」と回答した者を定期受診者とした。

2) 福岡県A町住民健診

福岡県A町住民健診の質問票の回答結果を用い、定期受診の状況と要因を評価した。定期受診の状況は、2017年に40～79歳の2,791人が回答した結果を用いて評価した。質問票で、歯科医院で定期的に健診や口腔ケアを受けていると回答した者を定期受診者とした。定期受診者における受診頻度を評価した。

定期受診の要因については、2009年に50～59歳の589人が質問票に回答した結果を用いて評価した。定期受診と関与する質問項目の各選択肢で、定期受診者の割合を評価した。2009年の質問票では、歯科医院で歯周病などの定期管理を受けていると回答した者を定期受診者とした。歯科受診へ

の態度・口腔への関心についての質問項目と選択肢は、「かかりつけの歯科医院があるか。（選択肢：はい／いいえ）」、「特に悪いところがないときに歯科医院で歯科健診を受けることについてどう思うか。（選択肢：迷わず歯科医院に歯科健診に行く／悪いところがないので歯科医院に行きづらい／費用が気になって歯科医院に行きづらい／歯科健診を受ける必要性を感じない）」、「歯が痛む、歯ぐきが腫れる等の症状がでたらどうするか。（選択肢：すぐに歯科を受診する／しばらくは我慢して、症状がひどくなったら歯科を受診する／歯科健診を受ける必要性を感じない）」、「今後、お口の健康を維持するために、心掛けたいと思うことがあるか。（選択肢：定期的なケア等に費用をかけて予防に力を入れていきたい／むしろ歯や歯周病などの問題が見つければ早めに治療するようにしたい／特に考えていない）」、「定期的に歯科健診を受ければ、将来的に多くの歯を残すことができると思うか。（選択肢：思う／思わない／わからない）」とした。歯科受診への態度や口腔への関心についての回答結果の男女差についてカイ二乗検定で検討した。

結果

1. 歯科医院への定期受診の状況

8020推進財団の調査結果と福岡県A町の健診結果から歯科医院への定期受診者の割合を年齢別に図1に示す。2015年の8020推進財団調査では、全体で定期受診者の割合が34.8%で、20代が25.6%と最も低く、70代が43.9%と他の年代よりも高くなっていた。2017年の福岡県A町の健診結果では、年齢が高くなるほど定期受診者の割合が高く、70代では58.9%であった。定期受診者における受診頻度では、2～3か月おきの来院、半年に1回来院する者が多かった。

2. 歯科医院への定期受診の要因

2009年福岡県A町の健診結果で、歯科受診への態度・口腔への関心についての質問項目と定期受診状況について検討したところ、かかりつけ歯科

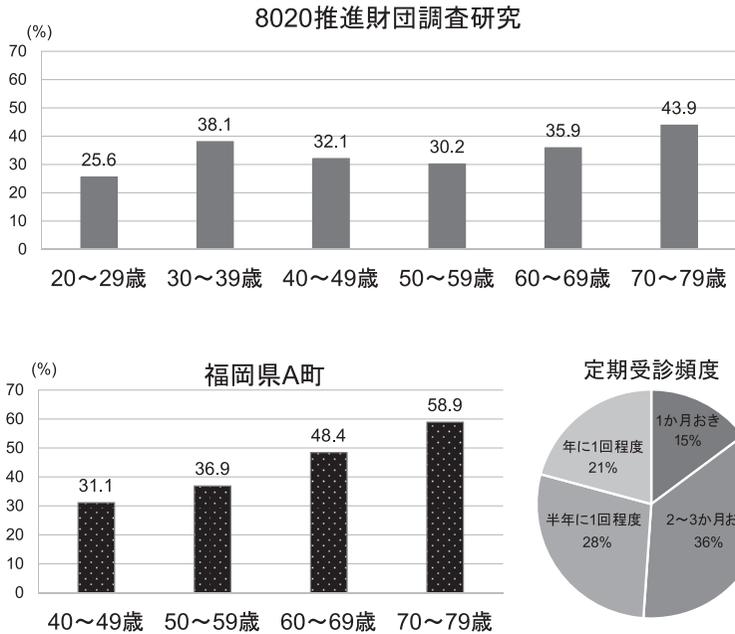


図1 8020推進財団調査研究と福岡県A町の定期受診者の割合

歯科医院で歯周病などの定期管理を受けていると回答した者

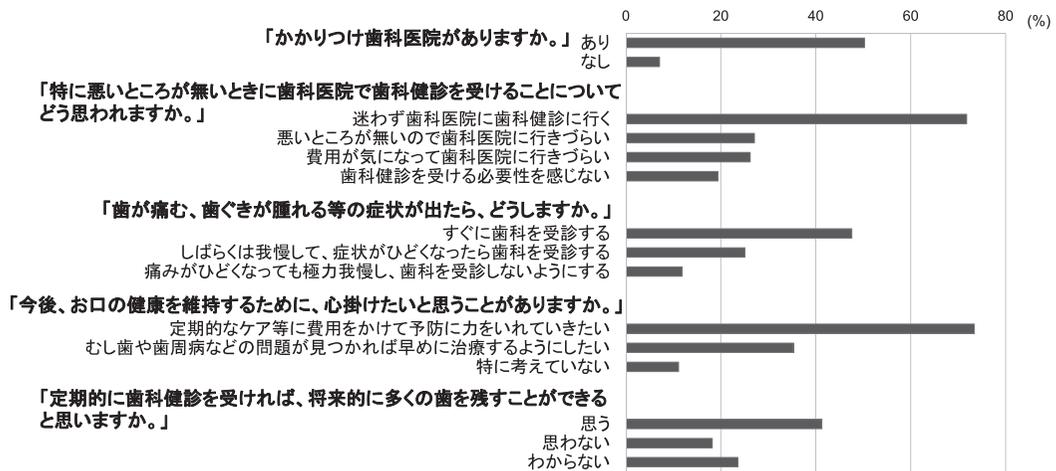


図2 歯科受診への態度・口腔への関心についての質問項目における定期受診者の割合

医院がある者では、定期管理を受けている者が50%であった（図2）。「特に悪いところがない時に歯科医院で歯科健診を受けることについてどう思うか」との質問で、迷わず歯科医院に歯科健診に

行くと回答した者では定期受診者が72%と多くいた。その他の回答として、悪いところがないので歯科医院に行きづらい、費用が気になって歯科医院に行きづらい、歯科健診を受ける必要性を感じ

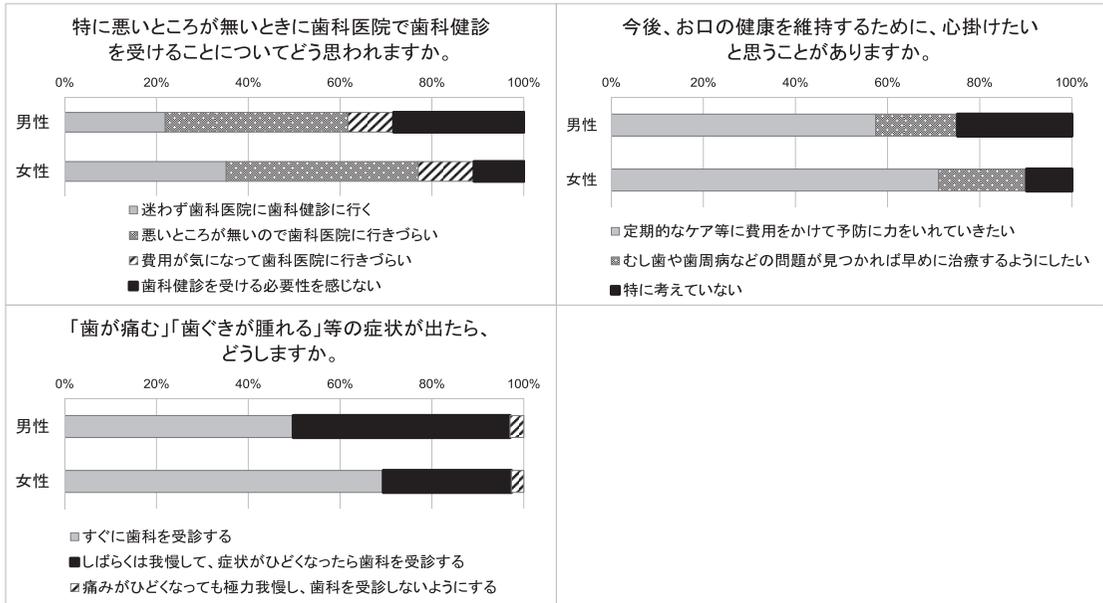


図3 歯科受診への態度・口腔への関心についての質問項目における男女差 (X²検定により全ての項目でp<0.001)

ない人では歯科医院で定期管理を受けてなかった。歯が痛む、歯ぐきが腫れる等の症状が出た際にしばらくは我慢して、症状がひどくなったら歯科を受診する人や、痛みがひどくなっても極力我慢し、歯科を受診しないようにする人では定期受診者は少なかった。また、「今後、お口の健康を維持するために、心掛けたいと思うことがあるか。」の質問に対し、特に考えていない人では定期受診者が少なかった。歯科受診への態度や口腔への関心についての回答結果の男女差については、特に悪いところが無い時に歯科医院で歯科健診を受ける必要性を感じていない者、症状が出た時に我慢して、症状がひどくなったら歯科を受診する者、口腔の健康維持について特に考えていない者で、女性よりも男性で多かった(図3)。

考察

一般地域住民を対象とした調査結果から、年齢が高くなると定期的に歯科医院を来院する者が多くなる傾向が認められた。また、消極的な受診態

度を取る者や口腔への関心が低い者では、定期的に歯科医院を受診していなかった。

定期受診の要因には、個人の要因と歯科医院の要因があると考えられる。個人の要因として、本研究で示した受診態度や口腔への関心といった要因のほかに、8020推進財団の調査結果から、女性や高齢者は定期健診で歯科医院を受診する者が多かったことが報告されている³⁾。この理由として、女性は男性に比べて健康意識が高く、良い健康行動を取っている傾向があるためと考えられる⁴⁾。本研究においても、男性のほうが口腔の健康に注意を払っておらず、口腔の健康への意識が低いことが認められた。高齢者については時間的余裕があり、健康を意識して定期的に歯科医院を受診している可能性がある。また、8020推進財団調査で、経済状態が悪いほど、また、現在歯数が少ない者ほど定期健診を受けていなかったことが報告されている³⁾。これは、経済状態が悪いと定期受診の費用が負担となりやすいことや、現在歯数が少ない場合、定期受診の必要性を感じられないた

めと考えられる。

歯科医院側の要因として、歯科医院とその患者を対象にした8020推進財団の調査結果では、歯科衛生士専用チェアがあり、歯科保健指導時間が長く、歯科衛生士数が多い歯科医院の患者は定期受診していた⁵⁾。これは、歯科衛生士専用チェアがある場合、歯科衛生士は保健指導時間を長めに取ることができ、患者において定期受診する動機付けが高まると考えられる。静岡県内農山部地域から、年代別に無作為抽出された20～69歳でかかりつけ歯科医がある354人の結果では、患者個人の要因を調整しても、かかりつけ歯科医が男性の人に比べ、女性歯科医がかかりつけであったほうがその患者は毎年歯科医院で定期健診を受けているとの関係が認められた⁶⁾。この理由として、女性歯科医は男性歯科医より予防的治療を選択する傾向があり⁷⁾、また、女性歯科医は男性歯科医より歯科保健指導の中心を担う歯科衛生士と連携を取りやすいことが考えられる。

今後、定期受診者を増やすために、男性、若者、収入が低い人、無関心な人に対するアプローチが必要であり、歯科医院では、歯科衛生士や女性歯科医師の増員のほかに、う蝕などの治療を理由に来院した患者に、症状がなくても定期健診を受ける必要性について説明することは効果があると考えられる。

文 献

- 1) Furuta M, Takeuchi K, Takeshita T, Shibata Y, Suma S, Kageyama S, Asakawa M, Shimazaki Y, Hata J, Ninomiya T, Yamashita Y. Baseline periodontal status and modifiable risk factors are associated with tooth loss over a 10-year period: Estimates of population attributable risk in a Japanese community. *J Periodontol* 2021
- 2) 8020推進財団. 平成27年度調査研究事業「一般地域住民を対象とした歯・口腔の健康に関する調査研究」報告書. 東京: 8020推進財団, 2016.
- 3) 相田 潤, 深井稜博, 古田美智子, 佐藤遊洋, 嶋崎義浩, 安藤雄一, 宮崎秀夫, 神原正樹. 歯科医院への定期健診はどのような人が受けているのか 受診の健康格差 8020推進財団「一般地域住民を対象とした歯・口腔の健康に関する調査研究」. *口腔衛生学会雑誌* 2017: 67, 270-275.
- 4) Ostberg AL, Halling A, Lindblad U. Gender differences in knowledge, attitude, behavior and perceived oral health among adolescents. *Acta Odontol Scand* 1999: 57, 231-236.
- 5) Inoue Y, Shimazaki Y, Oshiro A, Zaitu T, Furuta M, Ando Y, Miyazaki H, Kambara M, Fukai K, Aida J. Multilevel analysis of the association of dental-hygienist-related factors on regular dental check-up behavior. *Int J Environ Res Public Health* 2021: 18, 2816.
- 6) Takeuchi K, Noguchi Y, Nakai Y, Ojima T, Yamashita Y. Dentist gender-related differences in patients' oral health behaviour. *J Oral Sci* 2020: 62, 32-35.
- 7) Brennan DS, Spencer AJ. The role of dentist, practice and patient factors in the provision of dental services. *Community Dent Oral Epidemiol* 2005: 33, 181-195.

Regular dental visit pattern and consideration of its related factors in Japanese community-dwelling people

Michiko Furuta, Yoshihisa Yamashita

(Section of Preventive and Public Health Dentistry, Division of Oral Health, Growth and Development,
Faculty of Dental Science, Kyushu University, Fukuoka, Japan)

Key Words : Dental clinic, regular dental visit, dental visit behavior

Regular dental visit contributes to maintain good oral health. In fact, the percentage of individuals with regular dental visit was 35% in the dental survey for community-dwelling people. Many Japanese people do not regularly visit dental clinic. Previous studies reported that men, young people, and individuals with low income or fewer teeth were less likely to regularly visit dental clinic. This study showed that individuals who endured symptoms of oral diseases, did not pay attention to oral health, and hesitated to visit dental clinic due to good oral health, had no regular dental visit. It has been reported that patients did not tend to regularly visit in dental clinics which no dental hygienist, no dental chair for dental hygienist, and short time for oral health guidance. These findings suggest that dental visit behaviors divide into individual factors and dental clinic factors.

Health Science and Health Care 21 (2) : 63–68, 2021